

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目 5, 7, 8, 9, 14, 15 は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際、先日の地震の話題があがり、避難所としての施設の提供も話し合っているところである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアの向上と地域に開かれた施設を目指し、日々努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施後は報告書を活用し、全職員が内容を把握できるようにしていると共に、職員会議の際に取り組み状況等の話し合いを行い今後のサービスに活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームヘルパー2級養成講座の受託を受けており、そのほかにも中学校の体験学習の受け入れをしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在までに成年後見人制度の利用は1度あり、入居中の他利用者家族の質問にも答えている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止に努め、施設内はもとよりご家庭でも虐待のないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際は、入所希望者・ご家族・担当の介護支援専門員から情報収集し検討会議を行い、やむを得ず解約をする場合は場合は十分に入所者・ご家族と話し合っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に1度の運営推進会議では毎回違う利用者様に参加をお願いしており、そのほかにも利用者会議などで意見の言える環境作りをしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時には日常の生活や健康状態を報告しており、金銭管理については請求時に領収書を添付して送付している。また、不明な点は随時対応できる準備がある。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口の設置や第三者委員・市の窓口を玄関に掲示し、苦情の際は対応できる体制が整っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>概ね月2回職員会議を行い職員の意見や提案を聞いて反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者会議や職員会議の中で常にニーズを把握し、必要に応じて勤務体制の変更を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>急な移動や大々的な人員の移動で利用者が混乱することのないように、配慮している。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>病気や怪我などのマニュアル、天災時のマニュアルを整備し、不定期ではあるが職員研修も行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修は必要に応じて行っているが、外部の研修があまりないため介護福祉士会の加入も考えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点で同一地区事業所間のかかわりはないが、今後職員間の交流や研修などもすすめていきたい考えがある。		近隣地区の特別養護老人ホーム、グループホーム、包括支援センターとの介護支援専門員の交流が近々予定されている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスを軽減するため、話ができる時間を設けたり、不満などを常に聞く体制がある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が自分の個性を生かして働けるよう、知識の向上のための必要な研修をしたり、職員が個々の個性を生かして働けるように努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接から利用にいたるまで、本人の不安を軽減するよう、話を聞いたり実際に見学に来ていただいたりしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接から利用に至るまで、ご家族の不安や利用に至るまでの経緯をよく聞き、また必要時は、本人と家族の調整にも努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、まず認知症対応型共同生活介護とはどういったサービスであるかを説明し、本人にあったサービスを一緒に検討している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス提供開始前に、見学に来ていただき、雰囲気を見ていただくと共に、ご家族には、本人の不安軽減のため入所してすぐは可能な限り面会をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の特徴や特技を理解しようと努め、本人の個性を活かしながら生活していただくよう関係作りをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が常に本人の状態を把握できるように、面会の際はこまめに状態報告をし、そのほかにも新聞・手紙などで状況を伝えている。また、行事にも参加していただけるように前もって連絡をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係が良いものとなるように、ご家族が気軽に施設に足を運んでいただけるような環境作りに取り組んでいる。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで築いてきた人間関係を大切に出来るよう、電話を掛けるように援助したり、思い出深い場所にドライブをしたりして援助している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人が孤立しないよう援助しているが、男性利用者や認知症の進行している方については、自室で過ごす時間が多かったり、その方につきっきりになってしまうこともある。		自室で過ごすことが多い方については、共通のテレビをフロアで見えるように声掛けしたり、その人が中心となって会話が展開していけるような話題づくりをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず、契約終了になった方についても、施設への情報提供、ご家族への不安解消などの支援をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ること・出来ないことを職員会議で通じて見極め、入所者の持っている能力を發揮しながら生活してもらえよう援助している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者・ご家族・ケアマネージャから情報収集を行い、入所者が充実した生活を送れるよう援助している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケースカンファレンスを月2回行い、生活等の援助を行うと共にケース記録に計画書を挟むことで職員が把握できるようにしている。また計画の見直しがあった場合は、業務日誌に記載し職員に周知している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書作成の際には、必ず本人の意向や家族の意向を明らかにし、また必要時は地域のケアマネにも協力いただいて本人に合った計画書を作成するように努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況をみたりケースカンファレンスで新たな変化が生じて、すぐに計画が出来るように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記載に関しては、必要な記載がないときもあるため、書き方に関する指導をしているところである。		担当職員が、利用者の状態を把握したり、記録できるように、4月から担当から家族へ手紙を書いている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に不穏などへの対応は、そのときの状況で外出したり、気分転換するように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域周辺の機関から理解と協力を得られるよう、社会福祉協議会と連携を図ったり、地域の災害訓練に参加し消防機関とも協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、他のサービスが必要な利用者がいないが、希望された場合には、対応できる準備がある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいております、必要時には相談に乗っていただいたり、意見を頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家庭で過ごしていきときと同じ医療機関で受診しているが、ご家族が遠方の場合、希望に合わせて転院するなどしている。状態に応じて専門医を進める場合もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家庭で過ごされていた時と同じ医療機関に受診されている入居者もいるが、提携受診先や認知症専門医から支持や助言を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師不在が続いているが、必要時は本人受診の病院・医院に支持を仰いでいる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、入院先と連絡を密にとるように努めている。しかし、入院後重度化または、常時医療を必要とする状態になり、退所となるケースが多い。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の考え方については、ご家族とよく話し合い、施設の出来ること・出来ないことを伝えている。また、文書化して職員全員が把握できるようにしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師がいないため、できることが限られるが、必要なら訪問看護と提携し、出来る限り今の生活を継続させていこうという準備がある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居後のダメージを最小限に抑えるため家族から協力して頂けるよう了解を得ているとともに、他事業所から十分な情報提供を受けている。別の居所へ移る際は、入居先に十分な情報交換を行い、退所後も連絡をとり、安心して生活できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は入居者一人ひとりの意思や希望を尊重し、さりげない介助、誇りやプライバシーを損ねないような静かでゆったりした言葉かけや本人の能力に応じた接し方法で対応している。記録等の個人情報は鍵の掛かる場所に保管している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	買い物や散歩等の決定を表現できるよう声を掛けながら働きかけ自己決定が出来るよう支援している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員側の決まりごとや都合を優先せず、入居者一人ひとりのペースで過ごしてもらえよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	入居者の希望にあわせてご家族と一緒に出かけたり、職員の支援を受けて理美容店に行けるよう支援している。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	後片付けに関しては、利用者会議で決まった当番を見ながら利用者が自分で行動することを基本とし、そのほかにも職員と一緒に準備や食事作りを行っている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	酒やたばこにかんしては、本人・家族に入居前までに、施設では支援できないことを了承していただいている。好みのものであるが、病気との兼ね合いもあるが、出来るだけ本人の意向に沿うよう、また、誕生日には好みのものを食していただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用を減らすために排泄パターンを把握し布パンツへ移行している。また、自尊心を傷つけないようにするため、他利用者に気付かれないよう声掛けを行い支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞きゆっくりと入浴できるよう支援している。		職員の勤務勤務体制により入浴時間が変動する場合がありますので、勤務体制を見直すと共に、入所者が希望する時間帯に入浴できるよう検討していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、運動や気分転換を図り、安心して休めるような環境作りをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意な分野に合わせ役割、楽しみ、気晴らしの場面づくりを行い支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はトラブル防止のため、小額の所持とし、管理や買い物の際使用していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や体調に応じて、また希望があれば外出できるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員と一緒に外出したり、行事を計画し地域の祭りに参加や入居者・ご家族・職員で日帰り温泉に出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を日常の生活で利用できるように、希望があった場合はその方のプライバシーを考慮して事務所・居室等でその都度対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの方が和んで過ごせるような雰囲気作りを心がけている。希望があれば宿泊も可能にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく認識しており身体拘束をしていない。今後も拘束のないケアに取り組んでいく。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯のため玄関・居室等に鍵を掛けているが、日中は鍵を掛けることはしていない。外出傾向のある方は全職員が把握しているため、外出された際はさりげなく一緒に出てケアしている。		裏口には段差や階段がり転倒の危険性から鍵をかけている。入居者ご自身で鍵を開けられることもあり、備付けのインターホンを活用し注意している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	目の届く範囲に職員が配置しており、その場から離れる際は職員間での声掛けを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤・刃物等の注意が必要な物品は、保管場所と管理方法が取り決められており全職員が理解、実行している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告を活用し事故を防止しているが、事故発生時には事故報告書を記入して検証、再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時対応のマニュアルはあるが、定期的な訓練は実施していない。		急変や事故発生時に迅速に対応できるように今後、定期的に研修を取り入れていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災会長に協力を得られるよう働きかけ、地域と合同で災害訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者本人の生活を中心に考え、起こり得るリスクはご家族に相談・話し合いを行い対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い一人ひとりの体調を確認し、異変を発見した際は、職員間で情報交換を行い、対応・処置を行うと共に重化を防ぐよう努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・晩・就寝前・食前と1回分をケースに分別し服薬の支援をしている。薬の種類や用法・用量が変更した場合は、服薬の一覧表を新しく変え全職員が把握できるように徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や影響を全職員が理解しており、飲食物の量や種類を変更したり体操への参加、散歩等身体を動かす働きかけを行い自然排泄に取り組んでいる。なるべく薬に頼らないよう心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・うがいの声掛けをしており、不足の時は援助している。提携の歯科により半年に1回、歯科衛生士の定期巡回を実施し、口腔指導を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの身体機能や健康状態にあわせた食事量・調理方法にして、水分量が不足しないようこまめに水分補給の声を掛けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応はマニュアルを整備し、流行している感染症には早めにうがい・手洗い・消毒等の励行を入所者、ご家族の面会時、職員に促し蔓延化を防いでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は使用の前後に、アルコール噴霧による消毒や食器洗い機による高温殺菌を毎食後に行い、定期的にハイター消毒を実施している。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周辺には花を植え穏やかな雰囲気を作り出すと共に歩きやすいように整備している。自治会長を通じて、近隣の方々に行事参加の案内を行い理解を得られるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節間を感じてもらえるように入所者と一緒に作成した作品や写真などを飾り、親しみやすい雰囲気をだしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、季節に応じてコタツやテーブル・椅子を設置して自由に過ごせるよう工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には入居から使用していた家具や衣類を持ち込んでもらい本人の居心地がよく過ごせるように部屋作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やトイレ内に気になる臭いがないようこまめに掃除をしている。温度調節はその都度、気候に合わせて空気の入換えや冷暖房を使用し調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ等には手すりや滑り止めを取り付け、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力、わかる力を活かし進んで活動できるように掃除道具・台所用品・食器類を目に付く場所に設置し環境を工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外は歩きやすいよう整備し、玄関周りや駐車場には草花・木を植えて見て楽しんでもらったり、育てられる環境にしつつ地域の方が訪ねやすいよう、家庭的な雰囲気づくりにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の皆さんと職員がそれぞれの個性を活かしながら、生き生きと生活していけるように日々支援しています。開所して1年半、少しずつ地域の方への理解や家族の方々への理解が広まってきているようですが、足りない部分・これからやりたいことなど、まだまだたくさんの課題があります。ご利用者がもっと、自分らしくのびのびと生活していけるように、職員の知識を深め、より良い介護につなげていきたいと思いをします。